

対象校No.

注4

学校コード

注3

設置年度

令和

令和6年度

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

届出

注2

人間環境大学 総合心理学部 総合犯罪心理学科

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書  
(改正後大学設置基準適用)

学校法人河原学園

令和7年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名

総務人事部

職名・氏名

フチョウ イシダ アツシ  
部長・石田 淳

電話番号

0564-48-7811 (内線: 111)

(夜間)

0564-48-7811 (内線: 111)

e-mail

soumuka@uhe.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に  
( )書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称: ◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合: 「〇〇大学」
- 学部の設置の場合: 「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合: 「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合: 「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合: 「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合: 「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合: 「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合: 「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、  
当該番号を記載してください。

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/mext\\_01087.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html)

4 対象校No.については、「【別紙】令和7年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、  
該当番号を記載してください。

# 目次

総合心理学部

＜総合犯罪心理学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	14
4. 既設大学等の状況	15
5. 教育研究実施組織の状況	16
6. 附帯事項等に対する履行状況等	25
7. その他全般的事項	27

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人河原学園

## (2) 大学名

人間環境大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒790-0825

愛媛県松山市道後樋又9-12

(大学本部 〒444-3505 愛知県岡崎市本宿町上三本松6-2)

(注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。

・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(カワハラ セイキ) 河原 成紀 (平成21年6月)		
学長	(マキヤマ スケトモ) 牧山 助友 (平成28年4月)		
学部長	(サトウ タカオ) 佐藤 隆夫 (令和4年4月1日)		
学科長等	(トモナガ マサキ) 友永 雅己 (令和5年4月1日)		

(注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を

( )書きで記入してください。

(例) 令和6年度に報告する内容 → (6)

令和7年度に報告する内容 → (7)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注)・当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
  - ・様式は、令和2年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和7年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
  - ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・短期交換留学生など、定員内に含まれていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
総合心理学部 総合犯罪心理学科 学士(心理学)	文学関係	4年	50人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人			

- (注)・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。
- ・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
  - ・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1)又は(その2の2))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
  - ・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		春季入学以外の学期区分について	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	-	-	-	-	-	-	-	-	50人	-	50人	-	春季入学以外の入学時期と入学定員内訳	0.82倍	一倍	
志願者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	413	(-)	316	(-)				
受験者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	374	(-)	297	(-)				
合格者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	331	(-)	262	(-)				
B 入学者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	43	(-)	39	(-)				
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	-	-	0.86	-	0.78	-				

- (注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
  - ・( )内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(( ))書きとするなど、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・転入学生は記入しないでください。
  - ・[ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
  - ・「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
  - ・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳(予定を含む)を記載してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)
  - ・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和8年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
  - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
  - ・「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	-	-	-	-	-	-	-	-	43	-	39	-	令和7年度2年次生43名のうち、1名は松山看護学部看護学科からの転部生
	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( )	( - )	( - )	( - )	
2年次			-	-	-	-	-	-	-	-	43	-	
			[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
			( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	
3年次					-	-	-	-	-	-	-	-	
					[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
					( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	
4年次							-	-	-	-	-	-	
							[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
							( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	
計	-	-	-	-	-	-	-	-	43	-	82	-	
	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	[ - ]	
	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	( - )	

(注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ [ ]内には、**留学生の状況**について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ ( )内には、**留年者の状況**について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ **編入学生や転入学生**も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、**春季入学**とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。**春季入学のみの実施**の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和2年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	人	人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
令和6年度	42 人	1 人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
			令和6年度	1 人	0 人	心身耗弱(1名)
令和7年度	82 人	0 人	令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
			令和6年度	0 人	0 人	
			令和7年度	0 人	0 人	
合計		1 人		1 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)  
 ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。  
 ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。  
 ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。  
 ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「修学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
 (記入項目例)・修学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(a+b)}} = \frac{1}{43} = \boxed{2.32} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数(a)}}{\text{令和7年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{82} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<総合心理学部 総合犯罪心理学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			基幹教員等の配置					の基幹教員以外を 除く(助手)
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手	
一般教養科目	英語 I	1前	2								1
	英語 II	1後	2								1
	英語講読 I	2前	2								2
	英語講読 II	2後	2								2
	ドイツ語 I	1前		2							1
	ドイツ語 II	1後		2							1
	フランス語 I	1前		2							1
	フランス語 II	1後		2							1
	経済学	1前		2							1
	政治学	1前		2							1
	法学	1後		2							1
	経営学	1後		2							1
	日本史A	1前		2							1
	日本史B	1後		2							1
	西洋史A	1前		2							1
	西洋史B	1後		2							1
	科学哲学	1前		2							1
	哲学史A	1前		2							1
	哲学史B	1後		2							1
	情報リテラシー I	1前	1								1
	情報リテラシー II	1後	1								1
	情報リテラシー III	2前		1							1
	体育	1前		1							1
小計 (23科目)		-	10	32	0	0	0	0	0	0	
基盤教養科目	人間環境学	1前	2								1
	心理学概論	1前	2								1
	こころは数値化できるか	1前	2								1
	犯罪心理学概論 (犯罪の発生、解決、予防の理解)	1後	2			1					
	こころの安心・安全学	2前	2			1					
	こころとは何か (動物・人間・AI)	1後		2							1
	心理学とキャリア	2後		2							1
	科学と人間 (科学の可能性と限界)	2前		2							1
小計 (8科目)		-	10	6	0	2	0	0	0	0	
基盤スキル科目	基礎ゼミナール (初級心理学実習)	1前	2			1		1			2
	心理学研究法	1後	2								1
	心理学統計法 I	1後	4								1
	心理学統計法 II	2前	4								1
	心理学調査実習	2前	2					1			2
	心理データ解析法	2前	2			1					1
	心理学実験 I	2後	2			1	1				4
	心理学実験 II	3前	2			1	1				4
	心理学実験計画法	3後		2							1
	心理調査計画法	3後		2							1
	心理臨床領域における研究法	3後		2							1
	心理学テクニカルライティング	3前		2							1
	心理学英語文献講読	3前		4							1
	小計 (13科目)		-	20	12	0	2	1	1	0	0

【令和7年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			基幹教員等の配置					の基幹教員以外を 除く(助手)
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手	
一般教養科目	英語 I	1前	2								1
	英語 II	1後	2								1
	英語講読 I	2前	2								2
	英語講読 II	2後	2								2
	ドイツ語 I	1前		2							1
	ドイツ語 II	1後		2							1
	フランス語 I	1前		2							1
	フランス語 II	1後		2							1
	経済学	1前		2							1
	政治学	1前		2							1
	法学	1後		2							1
	経営学	1後		2							1
	日本史A	1前		2							1
	日本史B	1後		2							1
	西洋史A	1前		2							1
	西洋史B	1後		2							1
	科学哲学	1前		2							1
	哲学史A	1前		2							1
	哲学史B	1後		2							1
	情報リテラシー I	1前	1								1
	情報リテラシー II	1後	1								1
	情報リテラシー III	2前		1							1
	体育	1前		1							1
小計 (23科目)		-	10	32	0	0	0	0	0	0	
基盤教養科目	人間環境学	1前	2								1
	心理学概論	1前	2								1
	こころは数値化できるか	1前	2								1
	犯罪心理学概論 (犯罪の発生、解決、予防の理解)	1後	2				1				
	こころの安心・安全学	2前	2				1				
	こころとは何か (動物・人間・AI)	1後		2							1
	心理学とキャリア	2後		2							1
	科学と人間 (科学の可能性と限界)	2前		2							1
小計 (8科目)		-	10	6	0	2	0	0	0	0	
基盤スキル科目	基礎ゼミナール (初級心理学実習)	1前	2				2	1	2		4
	心理学研究法	1後	2								1
	心理学統計法 I	1後	4								1
	心理学統計法 II	2前	4								1
	心理学調査実習	2前	2						1		
	心理データ解析法	2前	2			1					1
	心理学実験 I	2後	2			1	1				3
	心理学実験 II	3前	2			1	1	1			2
	心理学実験計画法	3後		2							1
	心理調査計画法	3後		2							1
	心理臨床領域における研究法	3後		2							1
	心理学テクニカルライティング	3前		2							1
	心理学英語文献講読	3前		4							1
	小計 (13科目)		-	20	12	0	2	1	2	0	0

基礎専門科目	発達心理学	1前	2							1	
	コミュニケーションの心理学 (すれ違いで生じる犯罪とその解決)	1前	2				1				
	臨床心理学概論	1後	2							1	
	感情・人格心理学	1後	4							1	
	高橋勝次氏の心理学(日田と ルールの狭間で生じるトラブル の解決方法)	2前	2				1				
	知覚・認知心理学	2前	4							1	
	神経・生理心理学	3前	4							1	
	比較認知心理学(こころの進 化と多様性)	2前	2		1						
	異常心理学(こころの病のメ カニズムを知る)	2後	2					1			
	学習・言語心理学	2後	4							1	
	社会・集団・家族心理学	2後	4							1	
	健康・医療心理学	2後	2							1	
	産業・組織心理学	3前	2							1	
	文化心理学(国際コミュニ ケーションのために)	3前	2							1	
	進化心理学(こころの由来)	3後	2							1	
	司法・犯罪心理学	3後	2							1	
	教育・学校心理学	4前	2							1	
小計(17科目)	-	20	24	0	1	0	3	0	0		
高度専門科目Ⅰ (総合犯罪心理系)	【プロゼ ミナール】:研 究の現場 に触れる	総合犯罪心理学プロゼミナ ールⅠ	1前		1		2	1	1		
		総合犯罪心理学プロゼミナ ールⅡ	1後		1		1		3		
	【犯罪 の生物 心理基 礎群】: 基礎か らはじ まる総 合犯罪 心理	比較発達犯罪心理学(罪を犯 すこころの進化と発達)	3前		2		1				
		身体心理学(自己制御のた めの心身論)	3前		2				1		
		新しいこころの訂例(脳活 動と生理反応からみるこ ころ)	3後		2				1		
		認知加齢とアロパチ(こころ 社会の健康を考える認知健康 科学)	3後		2		1				
	【社会の ルール の科学 群】: 現代社会 をみつ める総 合犯罪 心理	偏見・差別と犯罪(個人と社 会のスティグマから犯罪を知 る)	2前		2				1		
		テロリズムの心理学	2後		2				1		
		サイバー犯罪の心理学	2後		2				1		
		ギャンブルの心理学	3前		2						1
	【司 法・犯 罪心 理 学 群】: 実 践・ 臨床	依存症の心理学	2前		2						1
	被害者の心理学	2前		2		1					
	犯罪の認知心理学	2後		2			1				
	捜査心理学(プロファイリ ングによる犯罪分析)	3前		2			1				
	心理的アセスメント	3後		4						3	
小計(15科目)			0	30	0	3	1	4	0	0	3
高度専門科目Ⅱ (総合心理系)	意思決定の科学	2前		2							1
	ストレス科学	2前		2							1
	色彩の心理学	2前		2							1
	赤ちゃんの世界(生涯発達心 理学Ⅰ)	3後		2							1
	子どもからおとなへの認知発 達(生涯発達心理学Ⅱ)	2後		2							1
	高齢者の世界(生涯発達心理 学Ⅲ)	3前		2							1
	消費者の心理学(買う側の心 理学)	2前		2							1
	マーケティングの心理学(売 る側の心理学)	2後		2							1
	バーチャルリアリティの心理 学	2後		2							1
	ポジティブヘルス論(健康生 成の心理学)	3前		2							1
	視覚の心理学	2後		2							1
	恋愛心理学	2後		2							1
	顔認知とコミュニケーション	3前		2							1
	モチベーションの心理学	3後		2							1
	マインドフルネスの心理学	3後		2							1
	アドバンスト心理療法Ⅰ(行 動療法)	2後		2							1
	アドバンスト心理療法Ⅱ(認 知行動療法)	3前		2							1
	アドバンスト心理療法Ⅲ(遊 戯・芸術療法)	4前		2							1
	アドバンスト心理療法Ⅳ(精 神分析療法)	4前		2							1
	アドバンスト心理療法Ⅴ(人 間性心理学)	4後		2							1
	心理学統計法Ⅲ	3前		4							1
	アドバンスト調査実習(アン ケート調査作成の実践)	3後		4							2
	心理プログラミング	3後		2							1
小計(23科目)	-	0	50	0	0	0	0	0	0	0	19

基礎専門科目	発達心理学	1前	2								1
	コミュニケーションの心理学 (すれ違いで生じる犯罪とその解決)	1前	2						1		
	臨床心理学概論	1後	2								1
	感情・人格心理学	1後	4								1
	高橋勝次氏の心理学(日田と ルールの狭間で生じるトラブル の解決方法)	2前	2						1		
	知覚・認知心理学	2前	4								1
	神経・生理心理学	3前	4								1
	比較認知心理学(こころの進 化と多様性)	2前	2			1					
	異常心理学(こころの病のメ カニズムを知る)	2後	2						1		
	学習・言語心理学	2後	4								1
	社会・集団・家族心理学	2後	4								1
	健康・医療心理学	2後	2								1
	産業・組織心理学	3前	2								1
	文化心理学(国際コミュニ ケーションのために)	3前	2								1
	進化心理学(こころの由来)	3後	2								1
	司法・犯罪心理学	3後	2								1
	教育・学校心理学	4前	2								1
小計(17科目)	-	20	24	0	1	0	3	0	0		
高度専門科目Ⅰ (総合犯罪心理系)	【プロゼ ミナール】:研 究の現場 に触れる	総合犯罪心理学プロゼミナ ールⅠ	1前		1		2	1	1		
		総合犯罪心理学プロゼミナ ールⅡ	1後		1		1		3		
	【犯罪 の生物 心理基 礎群】: 基礎か らはじ まる総 合犯罪 心理	比較発達犯罪心理学(罪を犯 すこころの進化と発達)	3前		2		1				
		身体心理学(自己制御のた めの心身論)	3前		2				1		
		新しいこころの訂例(脳活 動と生理反応からみるこ ころ)	3後		2				1		
		認知加齢とアロパチ(こころ 社会の健康を考える認知健康 科学)	3後		2		1				
	【社会の ルール の科学 群】: 現代社会 をみつ める総 合犯罪 心理	偏見・差別と犯罪(個人と社 会のスティグマから犯罪を知 る)	2前		2				1		
		テロリズムの心理学	2後		2				1		
		サイバー犯罪の心理学	2後		2				1		
		ギャンブルの心理学	3前		2						1
	【司 法・犯 罪心 理 学 群】: 実 践・ 臨床	依存症の心理学	2前		2						1
	被害者の心理学	2前		2		1					
	犯罪の認知心理学	2後		2			1				
	捜査心理学(プロファイリ ングによる犯罪分析)	3前		2			1				
	心理的アセスメント	3後		4						3	
小計(15科目)			0	30	0	3	1	4	0	0	3
高度専門科目Ⅱ (総合心理系)	意思決定の科学	2前		2							1
	ストレス科学	2前		2							1
	色彩の心理学	2前		2							1
	赤ちゃんの世界(生涯発達心 理学Ⅰ)	3後		2							1
	子どもからおとなへの認知発 達(生涯発達心理学Ⅱ)	2後		2							1
	高齢者の世界(生涯発達心理 学Ⅲ)	3前		2				1			
	消費者の心理学(買う側の心 理学)	2前		2							1
	マーケティングの心理学(売 る側の心理学)	2後		2							1
	バーチャルリアリティの心理 学	2後		2							1
	ポジティブヘルス論(健康生 成の心理学)	3前		2							1
	視覚の心理学	2後		2							1
	恋愛心理学	2後		2							1
	顔認知とコミュニケーション	3前		2							1
	モチベーションの心理学	3後		2							1
	マインドフルネスの心理学	3後		2							1
	アドバンスト心理療法Ⅰ(行 動療法)	2後		2							1
	アドバンスト心理療法Ⅱ(認 知行動療法)	3前		2							1
	アドバンスト心理療法Ⅲ(遊 戯・芸術療法)	4前		2							1
	アドバンスト心理療法Ⅳ(精 神分析療法)	4前		2							1
	アドバンスト心理療法Ⅴ(人 間性心理学)	4後		2							1
	心理学統計法Ⅲ	3前		4							1
	アドバンスト調査実習(アン ケート調査作成の実践)	3後		4							2
	心理プログラミング	3後		2							1
小計(23科目)	-	0	50	0	0	0	0	0	0	0	18

演習科目	総合犯罪心理学演習Ⅰ	3前	1			3	1	4			
	総合犯罪心理学演習Ⅱ	3後	1			3	1	4			
	総合犯罪心理学演習Ⅲ	4前	1			3	1	4			
	総合犯罪心理学演習Ⅳ	4後	1			3	1	4			
	卒業論文	4通	6			3	1	4			
小計（5科目）	-	10	0	0	3	1	4	0	0	0	
公認心理師関連科目	人体の構造と機能及び疾病	1前		2							1
	精神疾患とその治療	1後		2							1
	障害者・障害児心理学	2前		2							1
	心理学的支援法	2前		2							1
	福祉心理学	2後		2							1
	公認心理師の職責	3前		2							1
	関係行政論	3後		2							5
	心理演習	3後		2		1		3			4
	心理実習	4通		2		1		3			4
	小計（9科目）	-	0	18	0	1	0	3	0	0	
合計（113科目）	-	70	172	0	3	1	4	0	0	46	
卒業要件及び履修方法											
必修科目70単位（一般教養科目より10単位、基盤教養科目より10単位、基盤スキル科目より20単位、基盤専門科目より20単位、演習科目より10単位）、選択必修科目32単位（一般教養科目より10単位、基盤スキル科目より2単位、基盤専門科目より4単位、「総合犯罪心理学プロゼミナールⅠ、Ⅱ」を除く高度専門科目Ⅰより16単位）を修得し、選択科目として一般教養科目・基盤教養科目・基盤スキル科目・基盤専門科目・高度専門科目Ⅰ・高度専門科目Ⅱ・公認心理師関連科目より24単位以上を修得し、126単位以上修得すること。（履修科目・上限46単位（年間））											

演習科目	総合犯罪心理学演習Ⅰ	3前	1			3	1	4			
	総合犯罪心理学演習Ⅱ	3後	1			3	1	4			
	総合犯罪心理学演習Ⅲ	4前	1			3	1	4			
	総合犯罪心理学演習Ⅳ	4後	1			3	1	4			
	卒業論文	4通	6			3	1	4			
小計（5科目）	-	10	0	0	3	1	3	0	0	0	
公認心理師関連科目	人体の構造と機能及び疾病	1前		2							1
	精神疾患とその治療	1後		2							1
	障害者・障害児心理学	2前		2							1
	心理学的支援法	2前		2							1
	福祉心理学	2後		2							1
	公認心理師の職責	3前		2							1
	関係行政論	3後		2							6
	心理演習	3後		2		1		2			4
	心理実習	4通		2		1		2			4
	小計（9科目）	-	0	18	0	1	0	2	0	0	
合計（113科目）	-	70	172	0	3	1	3	0	0	46	
卒業要件及び履修方法											
必修科目70単位（一般教養科目より10単位、基盤教養科目より10単位、基盤スキル科目より20単位、基盤専門科目より20単位、演習科目より10単位）、選択必修科目32単位（一般教養科目より10単位、基盤スキル科目より2単位、基盤専門科目より4単位、「総合犯罪心理学プロゼミナールⅠ、Ⅱ」を除く高度専門科目Ⅰより16単位）を修得し、選択科目として一般教養科目・基盤教養科目・基盤スキル科目・基盤専門科目・高度専門科目Ⅰ・高度専門科目Ⅱ・公認心理師関連科目より24単位以上を修得し、126単位以上修得すること。（履修科目・上限46単位（年間））											

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			基幹教員等の配置					の基幹教員(助手)を除く	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
一般教養科目	英語 I	1前	2									1
	英語 II	1後	2									1
	英語講読 I	2前	2									2
	英語講読 II	2後	2									2
	ドイツ語 I	1前		2								1
	ドイツ語 II	1後		2								1
	フランス語 I	1前		2								1
	フランス語 II	1後		2								1
	経済学	1前		2								1
	政治学	1前		2								1
	法学	1後		2								1
	経営学	1後		2								1
	日本史A	1前		2								1
	日本史B	1後		2								1
	西洋史A	1前		2								1
	西洋史B	1後		2								1
	科学哲学	1前		2								1
	哲学史A	1前		2								1
	哲学史B	1後		2								1
	情報リテラシー I	1前	1									1
	情報リテラシー II	1後	1									1
	情報リテラシー III	2前		1								1
	体育	1前		1								1
小計 (23科目)	-		10	32	0	0	0	0	0	0	0	
基盤教養科目	人間環境学	1前	2									1
	心理学概論	1前	2									1
	こころは数値化できるか	1前	2									1
	犯罪心理学概論 (犯罪の発生、解決、予防の理解)	1後	2			1						
	こころの安心・安全学	2前	2			1						
	こころとは何か (動物・人間・AI)	1後		2								1
	心理学とキャリア	2後		2								1
	科学と人間 (科学の可能性と限界)	2前		2								1
小計 (8科目)	-		10	6	0	2	0	0	0	0	0	
基盤スキル科目	基礎ゼミナール (初級心理学実習)	1前	2			1		1				2
	心理学研究法	1後	2									1
	心理学統計法 I	1後	4									1
	心理学統計法 II	2前	4									1
	心理学調査実習	2前	2					1				2
	心理データ解析法	2前	2			1						1
	心理学実験 I	2後	2			1	1					4
	心理学実験 II	3前	2				1	1				4
	心理学実験計画法	3後		2								1
	心理調査計画法	3後		2								1
	心理臨床領域における研究法	3後		2								1
	心理学テクニカルライティング	3前		2								1
	心理学英語文献講読	3前		4								1
小計 (13科目)	-		20	12	0	2	1	1	0	0	0	
基盤専門科目	発達心理学	1前	2									1
	コミュニケーションの心理学 (すれ違いで生じる犯罪とその解決)	1後	2					1				
	臨床心理学概論	1後	2									1
	感情・人格心理学	1後	4									1
	関係性心理学 (日田とルールの狭間で生じるトラブルの解決方法)	2前	2					1				
	知覚・認知心理学	2前	4									1
	神経・生理心理学	3前	4									1
	比較認知心理学 (こころの進化と多様性)	2前		2		1						
	異常心理学 (こころの病のメカニズムを知る)	2後		2				1				
	学習・言語心理学	2後		4								1
	社会・集団・家族心理学	2後		4								1
	健康・医療心理学	2後		2								1
	産業・組織心理学	3前		2								1
	文化心理学 (国際コミュニケーションのために)	3前		2								1
	進化心理学 (こころの由来)	3後		2								1
	司法・犯罪心理学	3後		2								1
	教育・学校心理学	4前		2								1
小計 (17科目)	-		20	24	0	1	0	3	0	0	0	

高度専門科目Ⅰ (総合犯罪心理学系)	【プロゼミナール】：研究の現場に触れる	総合犯罪心理学プロゼミナールⅠ	1前	1		2	1	1														
		総合犯罪心理学プロゼミナールⅡ	1後	1		1		3														
	【犯罪の生物心理神経基盤群】：基礎から始める総合犯罪心理学	比較発達犯罪心理学 (罪を犯すところの進化と発達)	3前		2		1															
		身体の心理学 (自己制御のための心身論)	3前		2				1													
		新しいこころの仕組み (脳活動と生理反応からみるこころ)	3後		2				1													
	【社会のルールの科学群】：現代をみつめる総合犯罪心理学	認知加齢とアフォーラ (こころと社会の健康を考える認知健康科学)	3後		2		1															
備忘・空かた犯罪 (国と社会のスティグマから犯罪を知る)		2前		2					1													
テロリズムの心理学		2後		2						1												
サイバー犯罪の心理学		2後		2							1											
【司法・犯罪心理学群】：実践・臨床へつなげる総合犯罪心理学	ギャンブルの心理学	3前		2																1		
	依存症の心理学	2前		2																1		
	被害者の心理学	2前		2			1															
	犯罪の認知心理学	2後		2					1													
	捜査心理学 (プロファイリングによる犯罪分析)	3前		2						1												
	心理的アセスメント	3後		4																3		
	小計 (15科目)		0	30	0	3	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3		
高度専門科目Ⅱ (総合心理学系)	意思決定の科学	2前		2																	1	
	ストレス科学	2前		2																	1	
	色彩の心理学	2前		2																	1	
	赤ちゃんの世界 (生涯発達心理学Ⅰ)	3後		2																	1	
	子どもからおとなへの認知発達 (生涯発達心理学Ⅱ)	2後		2																	1	
	高齢者の世界 (生涯発達心理学Ⅲ)	3前		2		1																
	消費者の心理学 (買う側の心理学)	2前		2																	1	
	マーケティングの心理学 (売る側の心理学)	2後		2																	1	
	バーチャルリアリティの心理学	2後		2																	1	
	ポジティブヘルス論 (健康生成の心理学)	3前		2																	1	
	視覚の心理学	2後		2																	1	
	恋愛心理学	2後		2																	1	
	顔認知とコミュニケーション	3前		2																	1	
	モチベーションの心理学	3後		2																	1	
	マインドフルネスの心理学	3後		2																	1	
	アドバンスト心理療法Ⅰ (行動療法)	2後		2																	1	
	アドバンスト心理療法Ⅱ (認知行動療法)	3前		2																	1	
	アドバンスト心理療法Ⅲ (遊戯・芸術療法)	4前		2																	1	
	アドバンスト心理療法Ⅳ (精神分析療法)	4前		2																	1	
	アドバンスト心理療法Ⅴ (人間性心理学)	4後		2																	1	
	心理学統計法Ⅲ	3前		4																		1
	アドバンスト調査実習 (アンケート調査作成の実践)	3後		4																		2
	心理プログラミング	3後		2																		1
	小計 (23科目)	-	0	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	
演習科目	総合犯罪心理学演習Ⅰ	3前	1			3	1	3														
	総合犯罪心理学演習Ⅱ	3後	1			3	1	3														
	総合犯罪心理学演習Ⅲ	4前	1			3	1	3														
	総合犯罪心理学演習Ⅳ	4後	1			3	1	3														
	卒業論文	4通	6			3	1	3														
	小計 (5科目)	-	10	0	0	3	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
公認心理師関連科目	人体の構造と機能及び疾病	1前		2																	1	
	精神疾患とその治療	1後		2																	1	
	障害者・障害児心理学	2前		2																	1	
	心理学的支援法	2前		2																	1	
	福祉心理学	2後		2																	1	
	公認心理師の職責	3前		2																	1	
	関係行政論	3後		2																	5	
	心理演習	3後		2		1		2													4	
	心理実習	4通		2		1		2													4	
	小計 (9科目)	-	0	18	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
合計 (113科目)			-	70	172	0	3	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46	

必修科目70単位 (一般教養科目より10単位、基盤教養科目より10単位、基盤スキル科目より20単位、基盤専門科目より20単位、演習科目より10単位)、選択必修科目32単位 (一般教養科目より10単位、基盤スキル科目より2単位、基盤専門科目より4単位、「総合犯罪心理学プロゼミナールⅠ、Ⅱ」を除く高度専門科目Ⅰより16単位)を修得し、選択科目として一般教養科目・基盤教養科目・基盤スキル科目・基盤専門科目・高度専門科目Ⅰ・高度専門科目Ⅱ・公認心理師関連科目より24単位以上を修得し、126単位以上修得すること。(履修科目・上限46単位 (年間))

(注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。  
なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、改正後大学設置基準等(令和4年10月1日施行)の適用以前については、改正前様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・ 「基幹教員等の配置」欄は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等の配置」としてください。
- ・ 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」としてください。
- ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の授業科目全て(基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)以外の教員(助手を除く)(改正後大学設置基準等の適用以前は兼任、兼任教員)が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。  
その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。  
なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準等(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、**「認可時又は届出時」の「主要授業科目」欄は削除し、「基幹教員等の配置」欄は「専任教員等の配置」、「基幹教員以外の教員(助手を除く)」欄は「兼任・兼任」としてください。**その上で、各年度については、「**基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)**」数は、認可時又は届出時の「**専任教員**」数との比較において変更となっている箇所、**「基幹教員以外の教員(助手を除く)(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員以外の教員(助手を除く)」)**」数は、認可時又は届出時の「**兼任・兼任**」数との比較において変更となっている箇所を**太字の赤字**としてください。  
(専任教員から基幹教員に変更したことをもって太字の赤字とする必要はありません。)
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・ 不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。  
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。  
その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。  
新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。  
(例:記載順)【認可時又は届出時】→【令和7年度(新)】→【令和6年度(新)】→【令和5年度】→【令和4年度】→【令和7年度(旧)】→【令和6年度(旧)】

(1) -②授業科目表に関する変更内容

#### 【令和6年度】

・ 「基礎ゼミナール(初級心理学実習)」について、既存の総合心理学と合同で開講するため、専任教員等の配置を「教授1、講師2、兼人・兼任2」から「教授2、准教授1、講師2、兼任・兼任5」に変更。  
・ 「心理学実験Ⅰ」の担当教員である兼任教員2名より就任辞退の申し出があり兼任教員1名が担当するため、専任教員等の配置を「教授1、准教授1、兼任・兼任4」から「教授1、准教授1、兼任・兼任3」に変更。  
・ 「心理学実験Ⅱ」の担当教員である兼任教員2名より就任辞退の申し出があり兼任教員1名が担当するため、専任教員等の配置を「准教授1、講師1、兼任・兼任4」から「准教授1、講師1、兼任・兼任3」に変更。  
・ 「葛藤解決の心理学(自由とルールの狭間で生じるトラブルの解決方法)、サイバー犯罪の心理学」の担当教員より就任辞退の申し出があったが、後任未定。  
・ 「司法・犯罪心理学」の担当教員より担当辞退の申し出があったため、専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「教授1、講師1、兼任・兼任2」に変更。  
・ 「総合犯罪心理学プロゼミナールⅡ」の担当教員1名より就任辞退の申し出があったため、専任教員等の配置を「教授1、講師3」から「教授1、講師2」に変更。  
・ 「高齢者の世界(生涯発達心理学Ⅲ)」の担当教員より就任辞退の申し出があったため、専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「教授1」に変更。  
・ 「総合犯罪心理学演習Ⅰ、総合犯罪心理学Ⅱ、総合犯罪心理学演習Ⅲ、総合犯罪心理学演習Ⅳ、卒業論文」の担当教員1名より就任辞退の申し出があったため、ため、専任教員等の配置を「教授3、准教授1、講師4」から「教授3、准教授1、講師3」に変更。  
・ 「関係行政論」の兼任教員3名より担当辞退の申し出、及び後任より担当コマ数減の申し出があり、一部を兼任教員が担当することとなったため、専任教員等の配置を「兼任教員5」から「兼任教員6」に変更。  
・ 「心理演習、心理実習」の担当教員1名より就任辞退の申し出があったため、専任教員等の配置を「教授1・講師3、兼任・兼任4」から「教授1・講師2、兼任・兼任4」に変更。  
・ 「コミュニケーションの心理学(すれ違いで生じる犯罪とその解決)」について、授業日調整により前期開講が困難となったため、配当年次を「1前」から「1後」に変更。

#### 【令和7年度】

・ 「基礎ゼミナール(初級心理学実習)」について、既存の総合心理学と合同で開講するため、専任教員等の配置を「教授1、講師2、兼人・兼任2」から「教授2、准教授1、講師2、兼任・兼任4」に変更。  
・ 「心理学調査実習」について、既存の総合心理学と別々に開講することとなったため、「兼任・兼任2」を削除。  
・ 「心理データ解析法」について、既存の総合心理学と別々に開講することとなったため、「兼任・兼任1」を削除。  
・ 「心理学実験Ⅰ」の担当教員である兼任教員2名より就任辞退の申し出があり兼任教員1名が担当するため、専任教員等の配置を「教授1、准教授1、兼任・兼任4」から「教授1、准教授1、兼任・兼任3」に変更。  
・ 「心理学実験Ⅱ」の担当教員である兼任教員2名より就任辞退の申し出があり兼任教員1名が担当するとともに、兼任教員1名が休職のため、教授1名を追加し、専任教員等の配置を「准教授1、講師1、兼任・兼任4」から「教授1、准教授1、講師1、兼任・兼任2」に変更。  
・ 「高齢者の世界(生涯発達心理学Ⅲ)」の担当教員より就任辞退の申し出があったため、専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「教授1」に変更。  
・ 「関係行政論」の兼任教員3名より担当辞退の申し出、及び後任より担当コマ数減の申し出があり、一部を兼任教員が担当することとなったため、専任教員等の配置を「兼任・兼任5」から「兼任・兼任6」に変更。  
・ 「心理演習、心理実習」の担当教員1名より就任辞退の申し出があり、後任の配置を調整中のため、専任教員等の配置を「教授1・講師3、兼任・兼任4」から「教授1・講師2、兼任・兼任4」に変更。

(注)・ 2(1)-① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、基幹教員等の配置の変更、主要授業科目の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。

変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。また、改正後大学設置基準(令和4年10月1日施行)の適用により、専任教員から基幹教員に変更した場合(例:「専任教員 教授1」から「基幹教員 教授1」に変更)や、兼任・兼任教員から基幹教員以外の教員に変更した場合(例:「兼任教員1」から「基幹教員以外の教員1」に変更)については、記入しないでください。
- ・ 不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
31 科目	82 科目	0 科目	113 科目	31 科目 [ 0 ]	82 科目 [ 0 ]	0 科目 [ 0 ]	113 科目 [ 0 ]	(記入例：指定規則の場合) 【旧カリキュラム】 設置時の計画：必修○科目、選択○科目、自由○科目、 計 (A) ○科目 変更状況：必修○科目、選択○科目、自由○科目、 計○科目

- (注)・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

(注)・配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

(注)・設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
- ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
- ・該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

(注)・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{2}{113} = \boxed{1.76} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	書式変更による「運動場 用地」専用1,144.1㎡、共 用11,800.0㎡を校舎敷地 に含め、さらにR7.4.1設 置の総合環境学部設置に 伴う専用農地400㎡を「そ 他」に追加した。		
	校舎敷地	24,780.90㎡ 23,636.8㎡ 30,051.8㎡	13,118.85㎡ 1,318.9㎡	1,595.40㎡ 1,061.0㎡	39,495.15㎡ 26,551.1㎡ 32,431.7㎡			
	そ の 他	45,619.80㎡ 45,219.8㎡ 38,804.8㎡	0 ㎡	0 ㎡	45,619.80㎡ 45,219.8㎡ 38,804.8㎡			
	合 計	70,400.7㎡ 70,000.7㎡	13,118.9㎡	1,595.4㎡ 1,061.0㎡	85,114.95㎡ 84,715.0㎡ 84,180.6㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	R7.4.1設置の総合環境学 部校舎面積を追加した。			
						29,154.45㎡ 25,867.27㎡ 25,163.5 ㎡	1,988.02㎡ 3,703.5 ㎡	5,272.79㎡ 5,456.6 ㎡
		(29,154.45㎡) (25,867.27㎡) (25,163.5 ㎡)	(1,988.02㎡) (3,703.5 ㎡)	(5,272.79㎡) (5,456.6 ㎡)	(36,415.26㎡) (33,128.08㎡) (34,323.6 ㎡)			
(3) 教室・教員研究室	教 室	22室	教員研究室	3029室				
(4) 図書・設備	新設学部等 の名称	図 書		学術雑誌		機械・器具 標本 点 点		
		〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕			
	総合心理学部	16,000 [450] 12,600 [1,280] 13,100 00 80 (12,200 [1,180])	0 [ 0 ] ( 0 [ 0 ] )	134 [10] 260 [34] 38 [0] (37 [2]) (260 [34])	4 [4] (0 [0]) (4 [4])	2,407 (2,407)	0 (0)	
	計	16,000 [450] 12,600 [1,280] 13,100 00 80 (12,200 [1,180])	0 [ 0 ] ( 0 [ 0 ] )	134 [10] 260 [34] 38 [0] (37 [2]) (260 [34])	4 [4] (0 [0]) (4 [4])	2,407 (2,407)	0 (0)	
(5) スポーツ施設等	スポーツ施設		講堂	厚生補導施設				
	724.00㎡		610.56㎡	523.76㎡				
(6) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	300千円	300千円	図書購入費	1,000千円	1,000千円	1,000千円
	共同研究費等	1,000千円	1,000千円	設備購入費	13,090千円	1,000千円	1,000千円	
	学生1人当り納付金	第1年次 1,280千円	第2年次 1,080千円	第3年次 1,080千円	第4年次 1,080千円	第5年次 — 千円	第6年次 — 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入 等						

(注)・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）又は（その1の3）に準じて作成してください。

（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（1）校地等」及び

「（2）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）

・ 「（4）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。

・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（6）」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

・ 校舎等建物の計画の変更（校舎の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

・ 高等専門学校については「（3）教室・教員研究室」欄の「教員研究室」は記載不要です。

・ 国立大学については「（6）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	人間環境大学										収容定員充足率0.7倍以下の学科数	収容定員充足率1.15倍以上の学科数
	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度			
人間環境学部	4	-	-	-	-	-	-	-	平成12	-		
人間環境学科	4	-	-	-	学士(人間環境学)	-	-	-	平成12	愛知県岡崎市本宿町上三本松6-2	平成29年度より学生募集停止	
心理学科	4	-	-	-	学士(心理学)	-	-	-	平成29	同上	令和4年度より学生募集停止	
環境科学科	4	-	-	-	学士(環境科学)	-	-	-	平成29	同上	令和4年度より学生募集停止	
心理学部	4	150	-	600	-	1.05			令和4	-		
心理学科	4	100	-	400	学士(心理学)	1.04			令和4	同上		
犯罪心理学科	4	50	-	200	学士(心理学)	1.06			令和4	同上		
環境科学部	4	100	-	400	-	1.09			令和4	-		
フィールド生態学科	4	60	-	240	学士(環境科学)	1.10			令和4	同上		
環境データサイエンス学科	4	40	-	160	学士(環境科学)	1.09			令和4	同上		
看護学部	4	95	-	380	-	1.13			平成27	-		
看護学科	4	95	-	380	学士(看護学)	1.13			平成27	愛知県大府市江端町3-220		
松山看護学部	4	80	-	320	-	0.86			平成29	-		
看護学科	4	80	-	320	学士(看護学)	0.86			平成29	愛媛県松山市花園町3-6		
総合心理学部	4	130	-	420	-	0.95			令和4	-		
総合心理学科	4	80	-	320	学士(心理学)	0.96			令和4	愛媛県松山市道後樋又9-12		
総合犯罪心理学科	4	50	-	100	学士(心理学)	0.91			令和6	同上		
総合環境学部	4	100	-	100	-	0.90			令和7	-		
フィールド自然学科	4	60	-	60	学士(環境学)	0.95			令和7	同上		
環境情報学科	4	40	-	40	学士(環境学)	0.83			令和7	同上		
大学全体	-	655	-	2220		0.97						

5 教育研究実施組織の状況

<総合心理学部 総合犯罪心理学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和6年度】

【令和7年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	友永 雅己 (60) <令和6年4月> 博士(理学)	比較認知心理学 比較発達犯罪心理学 総合犯罪心理学プロゼミナールⅠ 心理学実験Ⅰ 総合犯罪心理学演習Ⅰ 総合犯罪心理学演習Ⅱ 総合犯罪心理学演習Ⅲ 総合犯罪心理学演習Ⅳ 卒業論文	専	教授	友永 雅己 (60) <令和6年4月> 博士(理学)	比較認知心理学 比較発達犯罪心理学 総合犯罪心理学プロゼミナールⅠ 心理学実験Ⅰ 総合犯罪心理学演習Ⅰ 総合犯罪心理学演習Ⅱ 総合犯罪心理学演習Ⅲ 総合犯罪心理学演習Ⅳ 卒業論文	専	教授	友永 雅己 (61) <令和6年4月> 博士(理学)	比較認知心理学 比較発達犯罪心理学 総合犯罪心理学プロゼミナールⅠ 心理学実験Ⅰ <b>心理学実験Ⅱ</b> 総合犯罪心理学演習Ⅰ 総合犯罪心理学演習Ⅱ 総合犯罪心理学演習Ⅲ 総合犯罪心理学演習Ⅳ 卒業論文
専	教授	藤代 富広 (51) <令和6年4月> 博士(カウンセリング科学)	犯罪心理学論(犯罪の発生、解決、予防の理解) 被害者の心理学 総合犯罪心理学プロゼミナールⅠ 心理演習 心理演習 総合犯罪心理学演習Ⅰ 総合犯罪心理学演習Ⅱ 総合犯罪心理学演習Ⅲ 総合犯罪心理学演習Ⅳ 卒業論文	専	教授	藤代 富広 (51) <令和6年4月> 博士(カウンセリング科学)	犯罪心理学概論(犯罪の発生、解決、予防の理解) <b>基礎ゼミナール(初級心理学実習)</b> <b>司法・犯罪心理学</b> 被害者の心理学 総合犯罪心理学プロゼミナールⅠ 心理演習 心理演習 総合犯罪心理学演習Ⅰ 総合犯罪心理学演習Ⅱ 総合犯罪心理学演習Ⅲ 総合犯罪心理学演習Ⅳ 卒業論文	専	教授	藤代 富広 (52) <令和6年4月> 博士(カウンセリング科学)	犯罪心理学概論(犯罪の発生、解決、予防の理解) <b>基礎ゼミナール(初級心理学実習)</b> 被害者の心理学 総合犯罪心理学プロゼミナールⅠ 心理演習 心理演習 総合犯罪心理学演習Ⅰ 総合犯罪心理学演習Ⅱ 総合犯罪心理学演習Ⅲ 総合犯罪心理学演習Ⅳ 卒業論文
専	教授	野内 類 (43) <令和6年4月> 博士(心理学)	こころの安心・安全学 認知加齢と予防化学(こころと社会の健康を考える認知健康科学) 基礎ゼミナール(初級心理学実習) 総合犯罪心理学プロゼミナールⅡ 心理データ解析法 総合犯罪心理学演習Ⅰ 総合犯罪心理学演習Ⅱ 総合犯罪心理学演習Ⅲ 総合犯罪心理学演習Ⅳ 卒業論文	専	教授	野内 類 (43) <令和6年4月> 博士(心理学)	こころの安心・安全学 認知加齢と予防化学(こころと社会の健康を考える認知健康科学) 基礎ゼミナール(初級心理学実習) 総合犯罪心理学プロゼミナールⅡ 心理データ解析法 <b>高齢者の世界(生涯発達心理学Ⅲ)</b> 総合犯罪心理学演習Ⅰ 総合犯罪心理学演習Ⅱ 総合犯罪心理学演習Ⅲ 総合犯罪心理学演習Ⅳ 卒業論文	専	教授	野内 類 (44) <令和6年4月> 博士(心理学)	こころの安心・安全学 認知加齢と予防化学(こころと社会の健康を考える認知健康科学) 基礎ゼミナール(初級心理学実習) 総合犯罪心理学プロゼミナールⅡ 心理データ解析法 <b>高齢者の世界(生涯発達心理学Ⅲ)</b> 総合犯罪心理学演習Ⅰ 総合犯罪心理学演習Ⅱ 総合犯罪心理学演習Ⅲ 総合犯罪心理学演習Ⅳ 卒業論文
専	准教授	久保寺 俊朗 (48) <令和6年4月> 博士(心理学)	操作心理学(プロファイリングによる犯罪分析) 犯罪の認知心理学 総合犯罪心理学プロゼミナールⅠ 心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 総合犯罪心理学演習Ⅰ 総合犯罪心理学演習Ⅱ 総合犯罪心理学演習Ⅲ 総合犯罪心理学演習Ⅳ 卒業論文	専	准教授	久保寺 俊朗 (48) <令和6年4月> 博士(心理学)	<b>基礎ゼミナール(初級心理学実習)</b> 操作心理学(プロファイリングによる犯罪分析) 犯罪の認知心理学 総合犯罪心理学プロゼミナールⅠ 心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 総合犯罪心理学演習Ⅰ 総合犯罪心理学演習Ⅱ 総合犯罪心理学演習Ⅲ 総合犯罪心理学演習Ⅳ 卒業論文	専	准教授	久保寺 俊朗 (49) <令和6年4月> 博士(心理学)	<b>基礎ゼミナール(初級心理学実習)</b> 操作心理学(プロファイリングによる犯罪分析) 犯罪の認知心理学 総合犯罪心理学プロゼミナールⅠ 心理学実験Ⅰ 心理学実験Ⅱ 総合犯罪心理学演習Ⅰ 総合犯罪心理学演習Ⅱ 総合犯罪心理学演習Ⅲ 総合犯罪心理学演習Ⅳ 卒業論文
専	講師	木甲斐 智紀 (35) <令和6年4月> 修士(教育学)	異常心理学(こころの病のメカニズムを知る) 身体の心理学(自己制御のための心身論) 総合犯罪心理学プロゼミナールⅡ 心理演習 心理実習 総合犯罪心理学演習Ⅰ 総合犯罪心理学演習Ⅱ 総合犯罪心理学演習Ⅲ 総合犯罪心理学演習Ⅳ 卒業論文	専	講師	木甲斐 智紀 (36) <令和6年4月> 修士(教育学)	<b>基礎ゼミナール(初級心理学実習)</b> 異常心理学(こころの病のメカニズムを知る) 身体の心理学(自己制御のための心身論) 総合犯罪心理学プロゼミナールⅡ 心理演習 心理実習 総合犯罪心理学演習Ⅰ 総合犯罪心理学演習Ⅱ 総合犯罪心理学演習Ⅲ 総合犯罪心理学演習Ⅳ 卒業論文	専	講師	木甲斐 智紀 (37) <令和6年4月> 修士(教育学)	<b>基礎ゼミナール(初級心理学実習)</b> 異常心理学(こころの病のメカニズムを知る) 身体の心理学(自己制御のための心身論) 総合犯罪心理学プロゼミナールⅡ 心理演習 心理実習 総合犯罪心理学演習Ⅰ 総合犯罪心理学演習Ⅱ 総合犯罪心理学演習Ⅲ 総合犯罪心理学演習Ⅳ 卒業論文
専	講師	新岡 陽光 (35) <令和6年4月> 博士(心理学)	新しいこころの計測学(脳活動と生理反応からみるこころ) テロリズムの心理学 基礎ゼミナール(初級心理学実習) 総合犯罪心理学プロゼミナールⅡ 心理学調査実習 心理学実験Ⅱ 総合犯罪心理学演習Ⅰ 総合犯罪心理学演習Ⅱ 総合犯罪心理学演習Ⅲ 総合犯罪心理学演習Ⅳ 卒業論文	専	講師	新岡 陽光 (35) <令和6年4月> 博士(心理学)	新しいこころの計測学(脳活動と生理反応からみるこころ) テロリズムの心理学 基礎ゼミナール(初級心理学実習) <b>司法・犯罪心理学</b> 総合犯罪心理学プロゼミナールⅡ 心理学調査実習 心理学実験Ⅱ 総合犯罪心理学演習Ⅰ 総合犯罪心理学演習Ⅱ 総合犯罪心理学演習Ⅲ 総合犯罪心理学演習Ⅳ 卒業論文	専	講師	新岡 陽光 (36) <令和6年4月> 博士(心理学)	新しいこころの計測学(脳活動と生理反応からみるこころ) テロリズムの心理学 基礎ゼミナール(初級心理学実習) 総合犯罪心理学プロゼミナールⅡ 心理学調査実習 心理学実験Ⅱ 総合犯罪心理学演習Ⅰ 総合犯罪心理学演習Ⅱ 総合犯罪心理学演習Ⅲ 総合犯罪心理学演習Ⅳ 卒業論文

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	教員区分	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	講師	村中 誠司 (33) <令和6年4月> 博士(人間科学)	専	講師				
		葛藤解決の心理学(自由とルール の狭間で生じるトラブルの解決 方法) サイバー犯罪の心理学 総合犯罪心理学プロゼミナール II 心理演習 心理実習 総合犯罪心理学演習 I 総合犯罪心理学演習 II 総合犯罪心理学演習 III 総合犯罪心理学演習 IV 卒業論文						
専	講師	大井 瞳 (31) <令和6年4月> 博士(心理学)	専	講師	大井 瞳 (31) <令和6年4月> 博士(心理学)	専	講師	大井 瞳 (32) <令和6年4月> 博士(心理学)
		コミュニケーションの心理学(すれ 違いで生じる犯罪とその解決方 法) 偏見・差別と犯罪(個人と社会の ステイティングマから犯罪を知る) 総合犯罪心理学プロゼミナール I 心理演習 心理実習 総合犯罪心理学演習 I 総合犯罪心理学演習 II 総合犯罪心理学演習 III 総合犯罪心理学演習 IV 卒業論文			コミュニケーションの心理学(す れ違いで生じる犯罪とその解決方 法) 偏見・差別と犯罪(個人と社会の ステイティングマから犯罪を知る) 総合犯罪心理学プロゼミナール I 心理演習 心理実習 総合犯罪心理学演習 I 総合犯罪心理学演習 II 総合犯罪心理学演習 III 総合犯罪心理学演習 IV 卒業論文			コミュニケーションの心理学 (すれ違いで生じる犯罪とその 解決方法) 偏見・差別と犯罪(個人と社会 のステイティングマから犯罪を知 る) 総合犯罪心理学プロゼミナール I 心理演習 心理実習 総合犯罪心理学演習 I 総合犯罪心理学演習 II 総合犯罪心理学演習 III 総合犯罪心理学演習 IV 卒業論文
						専	講師	八木 彩乃 (36) <令和7年4月> 博士(学術)
								葛藤解決の心理学(自由とル ールの狭間で生じるトラブルの解 決方法) サイバー犯罪の心理学 総合犯罪心理学プロゼミ ナール II 総合犯罪心理学演習 I 総合犯罪心理学演習 II 総合犯罪心理学演習 III 総合犯罪心理学演習 IV 卒業論文
兼担	教授	佐藤 隆夫 (73) <令和6年4月> Ph. D. in Experimental Psychology (米国)	兼担	教授	佐藤 隆夫 (73) <令和6年4月> Ph. D. in Experimental Psychology (米国)	兼担	教授	佐藤 隆夫 (74) <令和6年4月> Ph. D. in Experimental Psychology (米国)
		心理学概論 視覚の心理学			心理学概論 視覚の心理学			心理学概論 視覚の心理学
兼担	教授	仲 真紀子 (68) <令和6年4月> 学術博士	兼担	教授	仲 真紀子 (68) <令和6年4月> 学術博士	兼担	教授	仲 真紀子 (69) <令和6年4月> 学術博士
		発達心理学 子どもからおとなへの認知発達 (生涯発達心理学 II) 司法・犯罪心理学			発達心理学			発達心理学
兼担	教授	加藤 司 (52) <令和6年4月> 博士(心理学)	兼担	教授	加藤 司 (52) <令和6年4月> 博士(心理学)	兼担	教授	加藤 司 (53) <令和6年4月> 博士(心理学)
		心理学研究法 科学と人間(科学の可能性と限界) ストレス科学 恋愛心理学 恋愛学テクニカルライティング			心理学研究法 科学と人間(科学の可能性と限界) ストレス科学 恋愛心理学 恋愛学テクニカルライティング			心理学研究法 科学と人間(科学の可能性と限界) ストレス科学 恋愛心理学 心理学テクニカルライティング
兼担	教授	伊藤 義徳 (49) <令和6年4月> 修士(人間科学)	兼担	教授	伊藤 義徳 (49) <令和6年4月> 修士(人間科学)	兼担	教授	伊藤 義徳 (50) <令和6年4月> 修士(人間科学)
		臨床心理学概論 アドバンスト心理療法 II (認知行動療法) マインドフルネスの心理学 心理学的支援法 公認心理士の職責 心理演習 心理実習			臨床心理学概論 司法・犯罪心理学 アドバンスト心理療法 II (認知行動療法) マインドフルネスの心理学 心理学的支援法 公認心理士の職責 関係行政論 心理演習 心理実習			臨床心理学概論 アドバンスト心理療法 II (認知行動療法) マインドフルネスの心理学 心理学的支援法 公認心理士の職責 関係行政論 心理演習 心理実習
兼担	教授	高野 裕治 (46) <令和6年4月> 博士(心理学)	兼担	教授	高野 裕治 (47) <令和6年4月> 博士(心理学)	兼担	教授	高野 裕治 (48) <令和6年4月> 博士(心理学)
		こころとは何か(動物・人間・AI) 学習・言語心理学 神経・生理心理学 情報リテラシー III			基礎ゼミナール(初級心理学実 習) こころとは何か(動物・人間・AI) 心理学実験 I 心理学実験 II 学習・言語心理学 神経・生理心理学			基礎ゼミナール(初級心理学実 習) こころとは何か(動物・人間・AI) 心理学実験 I 心理学実験 II 学習・言語心理学 神経・生理心理学
兼担	准教授	吉本 美穂 (62) <令和7年4月> 博士(心理学)	兼担	准教授	吉本 美穂 (61) <令和7年4月> 博士(心理学)	兼担	准教授	吉本 美穂 (62) <令和7年4月> 博士(心理学)
		障害者・障害児心理学 福祉心理学 心理演習 心理実習 心理的アセスメント アドバンスト心理療法 III (遠鏡・芸術療法)			障害者・障害児心理学 福祉心理学 心理演習 心理実習 心理的アセスメント アドバンスト心理療法 III (遠鏡・芸術療法)			福祉心理学 心理演習 心理実習 心理的アセスメント アドバンスト心理療法 III (遠鏡・芸術療法)



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名		
兼任	講師	守屋 優子 (57) <令和8年4月> 教育学修士		
		関係行政論		
兼任	講師	村上 幸一 (69) <令和8年4月> 教育学修士		
		関係行政論		
兼任	講師	久保 慎一 (73) <令和8年4月> 文学士		
		関係行政論		
兼任	講師	清家 かおる (60) <令和8年4月> 小児発達学博士		
		関係行政論		
兼任	講師	石川 正一郎 (77) <令和8年4月> 教育学修士		
		関係行政論		
兼任	講師	中西 大輔 (49) <令和7年4月> 博士(文学)		
		意思決定の科学		
兼任	講師	坂田 勝亮 (67) <令和7年4月> 文学修士		
		色彩の心理学		
兼任	講師	十河 宏行 (52) <令和8年4月> 博士(文学)		
		心理プログラミング		
兼任	講師	信原 孝司 (58) <令和9年4月> 心理学修士		
		アドバンスト心理療法Ⅳ(精神分析療法)		
兼任	講師	金子 周平 (48) <令和9年4月> 博士(心理学)		
		アドバンスト心理療法Ⅴ(人間性心理学)		
兼任	講師	大塚 由美子 (46) <令和8年4月> 博士(心理学)		
		赤ちゃんの世界(生涯発達心理学Ⅰ)		
兼任	講師	佐藤 真一 (69) <令和8年4月> 博士(医学)		
		高齢者の世界(生涯発達心理学Ⅲ)		
兼任	講師	隅田 学 (55) <令和7年4月> 博士(教育学)		
		英語講読Ⅰ		
		英語講読Ⅱ		
兼任	講師	伊藤 章子 (49) <令和7年4月> 学士(教育学)		
		英語講読Ⅰ		
		英語講読Ⅱ		
兼任	講師	田島 篤史 (42) <令和6年4月> 博士(文学)		
		ドイツ語Ⅰ		
		ドイツ語Ⅱ		
兼任	講師	越智 三起子 (54) <令和6年4月> 修士(フランス文学)		
		フランス語Ⅰ		
		フランス語Ⅱ		
兼任	講師	村田 晋也 (41) <令和6年4月> 修士(経済学)		
		経済学		
		経営学		
兼任	講師	福井 秀樹 (56) <令和6年4月> 修士(法学)		
		政治学		
兼任	講師	井口 秀作 (59) <令和6年4月> 法学修士		
		法学		
兼任	講師	川岡 勉 (67) <令和6年4月> 博士(文学)		
		日本史A		
兼任	講師	石畑 匡基 (36) <令和6年4月> 博士(比較社会文化)		
		日本史B		
兼任	講師	畑守 泰子 (67) <令和6年4月> 文学修士		
		西洋史A		
兼任	講師	吉田 正広 (67) <令和6年4月> 文学修士		
		西洋史B		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名		
兼任	講師	村上 幸一 (67) <令和8年4月> 教育学修士		
		関係行政論		
兼任	講師	清家 かおる (58) <令和8年4月> 小児発達学博士		
		関係行政論		
兼任	講師	中西 大輔 (48) <令和7年4月> 博士(文学)		
		意思決定の科学		
兼任	講師	坂田 勝亮 (66) <令和7年4月> 文学修士		
		色彩の心理学		
兼任	講師	十河 宏行 (50) <令和8年4月> 博士(文学)		
		心理プログラミング		
兼任	講師	信原 孝司 (55) <令和9年4月> 心理学修士		
		アドバンスト心理療法Ⅳ(精神分析療法)		
兼任	講師	金子 周平 (45) <令和9年4月> 博士(心理学)		
		アドバンスト心理療法Ⅴ(人間性心理学)		
兼任	講師	伊藤 章子 (48) <令和7年4月> 学士(教育学)		
		英語講読Ⅰ		
		英語講読Ⅱ		
兼任	講師	越智 三起子 (54) <令和6年4月> 修士(フランス文学)		
		フランス語Ⅰ		
		フランス語Ⅱ		
兼任	講師	村田 晋也 (41) <令和6年4月> 修士(経済学)		
		経済学		
		経営学		
兼任	講師	福井 秀樹 (56) <令和6年4月> 修士(法学)		
		政治学		
兼任	講師	井口 秀作 (60) <令和6年4月> 法学修士		
		法学		
兼任	講師	川岡 勉 (67) <令和6年4月> 博士(文学)		
		日本史A		
兼任	講師	石畑 匡基 (36) <令和6年4月> 博士(比較社会文化)		
		日本史B		
兼任	講師	畑守 泰子 (67) <令和6年4月> 文学修士		
		西洋史A		
兼任	講師	吉田 正広 (68) <令和4年4月> 文学修士		
		西洋史B		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名		
兼任	講師	村上 幸一 (68) <令和8年4月> 教育学修士		
		関係行政論		
兼任	講師	清家 かおる (59) <令和8年4月> 小児発達学博士		
		関係行政論		
兼任	講師	中西 大輔 (49) <令和5年4月> 博士(文学)		
		意思決定の科学		
兼任	講師	坂田 勝亮 (67) <令和7年4月> 文学修士		
		色彩の心理学		
兼任	講師	十河 宏行 (51) <令和8年4月> 博士(文学)		
		心理プログラミング		
兼任	講師	信原 孝司 (56) <令和9年4月> 心理学修士		
		アドバンスト心理療法Ⅳ(精神分析療法)		
兼任	講師	金子 周平 (46) <令和9年4月> 博士(心理学)		
		アドバンスト心理療法Ⅴ(人間性心理学)		
兼任	講師	伊藤 章子 (49) <令和7年4月> 学士(教育学)		
		英語講読Ⅰ		
		英語講読Ⅱ		
兼任	講師	越智 三起子 (55) <令和6年4月> 修士(フランス文学)		
		フランス語Ⅰ		
		フランス語Ⅱ		
兼任	講師	村田 晋也 (42) <令和6年4月> 修士(経済学)		
		経済学		
		経営学		
兼任	講師	福井 秀樹 (57) <令和6年4月> 修士(法学)		
		政治学		
兼任	講師	井口 秀作 (61) <令和6年4月> 法学修士		
		法学		
兼任	講師	川岡 勉 (68) <令和6年4月> 博士(文学)		
		日本史A		
兼任	講師	畑守 泰子 (68) <令和6年4月> 文学修士		
		西洋史A		
兼任	講師	吉田 正広 (69) <令和6年4月> 文学修士		
		西洋史B		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	松本 長彦 (67) <令和6年4月> 文学修士
		科学哲学
兼任	講師	山本 與志隆 (60) <令和6年4月> 文学修士
		哲学史A 哲学史B
兼任	講師	芦澤 昌彦 (57) <令和6年4月> 修士(哲学)
		情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ
兼任	講師	田中 雅人 (62) <令和6年4月> 体育学修士
		体育

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	松本 長彦 (67) <令和6年4月> 文学修士
		科学哲学
兼任	講師	山本 與志隆 (60) <令和6年4月> 文学修士
		哲学史A 哲学史B
兼任	講師	田中 雅人 (63) <令和6年4月> 体育学修士
		体育
兼任	講師	富田 孝子 (42) <令和7年4月> 博士(教育学)
		子どもからおとなへの認知発達(生涯発達心理学Ⅱ)
兼任	講師	松尾 博史 (65) <令和6年4月> 文学修士
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	准教授	工藤 顕太 (36) <令和6年4月> 博士(文学)
		人間環境学
兼任	講師	福田 昇 (66) <令和7年4月> 英語教育学修士
		英語講義Ⅰ 英語講義Ⅱ
兼任	講師	増田 隆司 (44) <令和6年4月> 博士(農学)
		情報リテラシーⅠ
兼任	講師	渡部 周平 (37) <令和6年4月> 学士(図書館情報学)
		情報リテラシーⅡ 情報リテラシーⅢ
兼任	講師	鳥山 理恵 (42) <令和8年4月> 博士(文学)
		文化心理学(国際コミュニケーションのために)
兼任	講師	浅川 淳司 (39) <令和8年4月> 博士(心理学)
		赤ちゃんの世界(生涯発達心理学Ⅰ)
兼任	講師	内田 優也 (39) <令和8年4月> 修士(学術)
		関係行政論
兼任	講師	松重 明 (42) <令和8年4月> 教育学士
		関係行政論
兼任	講師	大町 彩子 (50) <令和8年4月> 教育学修士
		関係行政論
兼任	講師	仲濑 江美 (52) <令和6年9月> 博士(学術)
		発達心理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	松本 長彦 (68) <令和6年4月> 文学修士
		科学哲学
兼任	講師	山本 與志隆 (61) <令和6年4月> 文学修士
		哲学史A 哲学史B
兼任	講師	田中 雅人 (64) <令和7年4月> 体育学修士
		体育
兼任	講師	富田 孝子 (42) <令和7年4月> 博士(教育学)
		子どもからおとなへの認知発達(生涯発達心理学Ⅱ)
兼任	講師	松尾 博史 (65) <令和6年4月> 文学修士
		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ
兼任	准教授	工藤 顕太 (36) <令和6年4月> 博士(文学)
		人間環境学
兼任	講師	増田 隆司 (45) <令和6年4月> 博士(農学)
		情報リテラシーⅠ
兼任	講師	渡部 周平 (38) <令和6年4月> 学士(図書館情報学)
		情報リテラシーⅡ 情報リテラシーⅢ
兼任	講師	鳥山 理恵 (43) <令和8年4月> 博士(文学)
		文化心理学(国際コミュニケーションのために)
兼任	講師	浅川 淳司 (40) <令和8年4月> 博士(心理学)
		赤ちゃんの世界(生涯発達心理学Ⅰ)
兼任	講師	内田 優也 (40) <令和8年4月> 修士(学術)
		関係行政論
兼任	講師	松重 明 (43) <令和8年4月> 教育学士
		関係行政論
兼任	講師	大町 彩子 (51) <令和8年4月> 教育学修士
		関係行政論
兼任	講師	井原 恒久 (65) <令和7年4月> 修士(学術)
		日本史B
兼任	講師	鈴木 理絵 (37) <令和7年4月> 博士(国際コミュニケーション)
		英語講義Ⅰ 英語講義Ⅱ
兼任	講師	日原 尚吾 (34) <令和9年4月> 博士(心理学)
		教育・学校心理学

- (注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)(その2の2)(その2の3)に準じて作成してください。
  - ・なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準等(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、改正後大学設置基準等(令和4年10月1日施行)の適用以前については、改正前様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
  - ・「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)以外の教員(助手を除く)(改正後大学設置基準等の適用以前は兼任、兼任教員を含む。))を黒字で記入してください。
  - ・その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
  - ・年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
  - ・記載は、設置認可時又は届出時における「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」に記載されている「教員区分」(改正後大学設置基準等の適用以前は「専任等区分」)の順に記入してください。
  - ・改正後大学設置基準等(令和4年10月1日施行)の適用以降については、主要授業科目にあたる「担当授業科目名」に下線を引いてください。
  - ・教員がサバティカル等で不在の期間がある場合、その期間(年月日)を上段「学位」の下へ記入してください。
  - ・不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。
  - ・指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和6年度】

- ・総合心理学科との合同開講に伴い、「基礎ゼミナール（初級心理学実習）」に藤代富広教授、久保寺俊朗准教授、木甲斐智紀講師、高野裕治兼任講師、横光健吾兼任講師、武田智也兼任講師を追加。
- ・仲真紀子兼任講師（令和7年4月総合心理学科着任（教授）予定）の「司法・犯罪心理学」科目担当辞退により、当該科目を藤代富広教授、新岡陽光講師、伊藤義徳兼任講師、横光健吾兼任講師が分担。
- ・佐藤真一兼任講師の就任辞退により、野内類教授が「高齢者の世界（生涯発達心理学Ⅲ）」を担当。
- ・村中誠司講師の就任辞退により、「葛藤解決の心理学（自由とルールの狭間で生じるトラブルの解決方法）、サイバー犯罪の心理学」は後任未定、「総合犯罪心理学プロゼミナールⅡ、心理演習、心理実習、総合犯罪心理学演習Ⅰ、総合犯罪心理学演習Ⅱ、総合犯罪心理学演習Ⅲ、総合犯罪心理学演習Ⅳ、卒業論文」は共同科目担当教員で分担。
- ・守屋優子兼任講師、久保慎一兼任講師、石川正一郎兼任講師の就任辞退により、「関係行政論」に伊藤義徳兼任講師、新規採用の内田優也兼任講師、松重明兼任講師、大町彩子兼任講師を追加。
- ・須藤竜之介兼任講師及び安田孝兼任講師の就任辞退により、「心理学実験Ⅰ、心理学実験Ⅱ」を高野裕治兼任講師が担当。
- ・高野裕治兼任講師の「情報リテラシーⅢ」科目担当辞退により、新規採用の渡部周平司兼任講師が「情報リテラシーⅢ」を担当。
- ・城田純平兼任講師（心理学部）の退職による科目担当辞退により「人間環境学」を工藤顕太兼任講師（心理学部に令和6年4月着任）に変更。
- ・竹村幸祐兼任講師の就任辞退により、新規採用の鳥山理恵兼任講師が「文化心理学（国際コミュニケーションのために）」を担当。
- ・大塚由美子兼任講師の就任辞退により、新規採用の浅川敦司兼任講師が「赤ちゃんの世界（生涯発達心理学Ⅰ）」を担当。
- ・隅田学兼任講師の就任辞退により、新規採用の福田昇兼任講師が「英語購読Ⅰ、英語購読Ⅱ」を担当。
- ・田島篤史兼任講師の継続辞退により、新規採用の松尾博史兼任講師が「ドイツ語Ⅰ」「ドイツ語Ⅱ」を担当。
- ・芦澤昌彦兼任講師の継続辞退により、新規採用の増田隆司兼任講師が「情報リテラシーⅠ」を担当。
- ・芦澤昌彦兼任講師の継続辞退により、新規採用の渡部周平司兼任講師が「情報リテラシーⅡ」を担当。
- ・仲真紀子兼任講師（令和7年4月総合心理学科着任（教授）予定）の「子どもからおとなへの認知発達（生涯発達心理学Ⅱ）」科目担当辞退により、新規採用の富田享子兼任講師が当該科目を担当。
- ・仲真紀子兼任講師（令和7年4月着任（教授）予定）の「発達心理学」科目担当辞退により、当該科目を新規採用兼任講師の仲渡江美講師が担当。

【令和7年度】

- ・「心理学実験Ⅱ」の兼務教員辞退により、友永雅己教授を追加。
- ・就任前辞退者の後任着任により、新規採用の八木彩乃講師が「葛藤解決の心理学（自由とルールの狭間で生じるトラブルの解決方法）」「サイバー犯罪の心理学」「総合犯罪心理学プロゼミナールⅡ」「総合犯罪心理学演習Ⅰ」「総合犯罪心理学演習Ⅱ」「総合犯罪心理学演習Ⅲ」「総合犯罪心理学演習Ⅳ」「卒業論文」を担当。
- ・「心理学調査実習」を学科別に実施することとなったため森本裕子兼任准教授の担当科目より当該科目を削除。
- ・中嶋智史兼任准教授が病氣療養による休職となったため、「基礎ゼミナール（初級心理学実習）」「心理学実験Ⅱ」を削除。
- ・水口啓吾兼任講師の就任辞退により、新規採用の日原尚吾兼任講師が「教育・学校心理学」を担当。
- ・石畑匡基兼任講師の就任辞退により、新規採用の井原恒久兼任講師が「日本史B」を担当。
- ・福田昇兼任講師の就任辞退により、新規採用の鈴木理絵兼任講師が「英語購読Ⅰ、英語購読Ⅱ」を担当。

(注) 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

- ・認可で設置された学部等の基幹（専任）教員を変更する場合は、当該基幹（専任）教員が授業を開始する前に必ず「基幹（専任）教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（A C教員審査）を受けてください。

**原則としてA C教員審査を受けずに基幹（専任）教員として授業等を担当することは出来ません。**

なお、改正前大学設置基準等に基づいて認可を受けて設置された学部等が、改正後大学設置基準等への適用のため、大学が基幹教員の要件を満たすと判断した

「専任教員」を「基幹教員」とする場合は、A C教員審査を受審する必要はない扱いとしています。（改正後大学設置基準等の適用にあたり、

「基幹教員」の担当授業科目を追加する場合、「基幹教員」の担当授業科目の内容を変更するなど、A C教員審査の受審を求めていた事由が発生する場合は、A C教員審査を受審する必要があります。

- ・A C教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。

なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。

- ・不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 基幹教員数等

(注)・計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十一条第二項（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の基幹教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要基幹教員数」及び「(2)-② 基幹教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要基幹教員数

完成年度時における設置基準上の必要基幹教員数 (α)	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	うち、完成年度時における設置基準上の専ら当該学部等の教員研究に従事する必要基幹教員数 (α) の4分の3以上)
6 名	3 名	6 名

(注)・大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第九項により算出される基幹教員数を記入してください。

- ・高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 基幹教員等数【大学・高専】

設置時の計画							現在（報告時）の状況						
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計 (A'')	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計 (B'')	助手 (B')
3	1	4	0	8	8	0	3	1	4	0	8	8	0
(3)	(1)	(3)	(0)	(7)	(7)	(0)							
現在（報告時）の完成年度時の状況							現在（報告時）の完成年度時の計画						
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計 (C'')	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計 (D'')	助手 (D')
3	1	4	0	8	8	0	3	1	4	0	8	8	0
[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	(0)	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	(0)

(注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。

高等専門学校の場合、「うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計）」欄は、「うち専ら当該高等専門学校の教育に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計）」として記入してください。

なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準（令和4年10月1日施行前）に基づき、対象学部等を設置している場合、「設置時の計画」欄は「設置時の計画（改正前大学設置基準等）」とした上で、「専任教員」及び「助手」の人数を記入してください。

また、「計 (A)」の「うち専ら当該学部等の教育研究に従事する者（「基（主専）」及び「基（専）」の計 (A'')）」欄には「-」を記入してください。

- ・「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
- ・「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
- ・「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注)・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

【基幹教員全体】

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{8}{8} = \boxed{100} \%$$

【基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者】

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C'')}}{\text{設置時の計画(A'')}} = \frac{8}{8} = \boxed{100} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{8} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 基幹(専任)教員辞任等の理由

(3)-① 基幹(専任)教員の就任辞退(未就任)の理由及び後任補充状況

番号	職位	基幹(専任)教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退(未就任)の理由						
1	講師	村中 誠司	R5.12	必修	基幹解決の心理学(自由とルールの間で生じるトラブルの解決方法)	①	本人都合による辞退の申し出があったため(設置前年度12月)						
				選択	サイバー犯罪の心理学	①							
				選択	総合犯罪心理学プロゼミナールⅡ	①							
				選択	心理演習	③							
				選択	心理実習	③							
				必修	総合犯罪心理学演習Ⅰ	①							
				必修	総合犯罪心理学演習Ⅱ	①							
				必修	総合犯罪心理学演習Ⅲ	①							
				必修	総合犯罪心理学演習Ⅳ	①							
合計(D)				後任補充状況の集計(E)									
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)	②の合計数(b)	③の合計数(c)							
1	人	必修	6	科目	必修	6	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	4	科目	選択	2	科目	選択	0	科目	選択	2	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	10	科目	計	8	科目	計	0	科目	計	2	科目

(注)・認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての基幹(専任)教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。

- ・「就任辞退(未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3)-②基幹(専任)教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに基幹(専任)教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退(未就任)の理由」に就任辞退の理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。
- ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・基幹(専任)教員が担当する(している)場合は「①」
- ・基幹(専任)教員以外の教員(兼任兼担教員)が担当する(している)場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3)-② 基幹(専任)教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	基幹(専任)教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
		該当なし											
合計(F)				後任補充状況の集計(G)									
辞任した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)	②の合計数(b)	③の合計数(c)							
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注)・一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての基幹(専任)教員について、記入してください。

- (学年進行中に基幹教員の要件を満たさなくなったことにより、基幹教員でなくなった教員についても記入してください。)
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに基幹(専任)教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。
- ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・基幹(専任)教員が担当する(している)場合は「①」
- ・基幹(専任)教員以外の教員(兼任兼担教員)が担当する(している)場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3)-③ 上記(3)-①・(3)-②の合計

合計(D)+(F)				後任補充状況の集計(E)+(G)									
辞任等した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)	②の合計数(b)	③の合計数(c)							
1	人	必修	6	科目	必修	6	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	4	科目	選択	2	科目	選択	0	科目	選択	2	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	10	科目	計	8	科目	計	0	科目	計	2	科目

(3)-④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{1}{8} = 12.5\%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3)-⑤ 令和6年度報告書から、新たに辞任等した基幹(専任)教員等の状況

0人

(注)・(3)-①、(3)-②で赤字で記載した基幹(専任)教員数の合計数を記載してください。

- ・令和7年度開設の学科等の場合、(D)+(F)と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した基幹（専任）教員に対する後任補充状況

番号	職位	基幹（専任）教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注)・ **定年により退職した全ての基幹（専任）教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに基幹（専任）教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| ・基幹（専任）教員が担当する（している）場合は「①」              |
| ・基幹（専任）教員以外の教員（兼任兼担教員）が担当する（している）場合は「②」 |
| ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」          |

(4) 基幹（専任）教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

上記の村中講師について届出のとおり就任いただくことを強く示しましたが、止むを得ない事情により辞退願を受理いたしました。令和7年度に入り講師1名の欠員補充に成功し、入学式での教員紹介、オリエンテーション、コマシラバスを通して学生への周知を行った。

- (注)・ 上記（3）の基幹（専任）教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
認 可 時 (令和3年)	特になし		
認 可 時 (令和4年)	特になし		
認 可 時 (令和5年)	特になし		
認 可 時 (令和6年)	特になし		

- (注)・「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおり記載してください。  
**【令和6年度報告書から記載内容に変更がある場合】**  
令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「（6）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（7）」と記載してください。  
**【令和6年度報告書から記載内容に変更がない場合】**  
令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「（6）（7）」と記載してください。  
**【令和7年度から新たに調査対象となった学科等又は令和6年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】**  
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（7）」と記載してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。  
その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

<総合心理学部 総合犯罪心理学科>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	変更なし

(注)・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>平成27年6月に全学的な組織として、特に教育内容、教育方法等の改善を推進することにより、本学の理念及び人材育成目標にふさわしい教育機能の質的向上を図る目的として、FD委員会を設置した。 さらに平成28年8月より、FD・SD委員会として委員会名を改正し、大学設置基準の改正に対応した運営を行っている。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>委員全員、全会において欠席は無い。 令和6年5月29日web会議</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>令和6年度各キャンパスの活動報告と今後の活動方針の確認およびFD・SD研修会の実施</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>(1) 授業アンケート結果による集計分析</p> <p>(2) FD・SD研修会実施</p> <p>①（全学）改正障害者差別解消法の施行における合理的配慮</p> <p>②（岡崎キャンパス）今後の公認心理師養成のあり方について</p> <p>③（大府キャンパス）発達障害およびその傾向のある看護学生への実習指導</p> <p>④（松山キャンパス）授業とAIの幸福な関係を考える（第1回）</p> <p>⑤（松山キャンパス）授業とAIの幸福な関係を考える（第2回）</p> <p>⑥（松山および松山道後キャンパス）これからの「教職協働」</p> <p>⑦（松山および松山道後キャンパス）次世代リーダー養成ゼミナール</p> <p>⑧（松山および松山道後キャンパス）大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（新任職員）</p> <p>⑨（SPOD）「C o n n e c t i o n ～これからの学びを考える～」</p> <p>⑩（SPOD）教務事務担当者講習会（初級編）</p> <p>b 実施方法</p> <p>(1) 授業アンケート結果による集計分析：各領域で項目ごとに詳細な分析を行う。その結果、平成29年度からは得点が低い教員には改善計画書の提出を求め、得点が高い教員に顕彰を行っている。</p> <p>(2) FD・SD研修会実施：研修会、講演会の実施、学生支援に関する内容、法令の改正等、最新の情報に目を向けて講師を選定した。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>(1) 授業アンケート結果による集計分析：FD・SD委員会、教授会で総括</p> <p>(2) FD・SD研修会実施開催状況（参加人数等）</p>
---

- ①岡崎キャンパス(教員40, 職員32)、大府キャンパス(教員39, 職員10, その他1)、松山キャンパス(教員18, 職員7, その他1)、道後キャンパス(教員16, 職員10)
- ②教員8
- ③大府キャンパス教職員全員
- ④教職員35

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

研究会や授業研究の成果を踏まえ、指導方法の工夫やICTの活用を進めることで、学生理解度や主体的な学びを高める授業改善に取り組んでいます。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

実施している。実施時期は5月、7月。また後期の授業評価アンケートをシラバスアンケートと位置付けており、11月、1月に行い年4回実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

科目毎のアンケート結果を大学ホームページにすべて公開している。また、科目ごとのアンケート評価および自由記述に対するコメントを全教員に求め、学生へのフィードバックを行っている。

(注)・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

全学的な組織として、自己点検・評価委員会を設置している。  
 本学では建学の精神に則り、基本理念及び目的を「人間環境に関する該博な知識と深い理解力を備え、すぐれた見識をもって人類と国家社会に貢献できる有為な人材の育成」としている。これらを具現化するとともに、既存の学部・学科で取り組んできた学問領域を拡充・進化させること等を目的として、平成27年4月に看護学部看護学科を設置、平成29年4月には人間環境学部を改組し心理学科および環境科学科の2学科制とするとともに松山看護学部看護学科を設置し、既存の大学院2研究科を加え、計3学部4学科2研究科の構成とした。令和4年4月には人間環境学部を改組、心理学部(心理学科および犯罪心理学科)と環境科学部(フィールド生態学科および環境データサイエンス学科)の2学部4学科制とするとともに、新たに総合心理学部を設置し、計5学部7学科2研究科の構成となった。また、令和5年4月には大学院松山看護学研究科を新たに設置し、5学部7学科3研究科の構成となった。さらに令和6年4月には総合心理学部に総合犯罪心理学科を新たに設置、5学部8学科3研究科の構成となった。さらに令和7年4月には総合環境学部(フィールド自然学科および環境情報学科)を設置し6学部10学科3研究科となった。  
 本自己点検・評価委員会は建学の精神の趣旨に沿っているかの観点から学部・学科・大学院間で相互点検し、情報を共有する場としている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

- ・令和7年3月に令和6年度分を公表

b 公表方法

- ・各年度の自己点検・評価報告書は大学ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和5年3月14日付で、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしている旨の認定を受けた。

(注)・設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和7年度）

a 公表予定の有無 [  有 ・ 無 ]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [ 調査結果公表後1ヶ月以内 ・  公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [  ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ） ]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、  
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。